

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102828		
法人名	社会福祉法人 敬友会		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	岡山市北区田中109-112		
自己評価作成日	令和 3 年 5 月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=3370102828-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 3 年 9 月 16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敬友会の理念に基づき、御利用者様の以前の生活を大切に、御入居されてからも趣味や嗜好等楽しみのある生活を送って頂ける様に援助している。毎月行事を計画し、季節感を感じられるよう季節ごとの催しを行っている。また、その様子を毎月ご家族様に手紙や写真と一緒に報告し、施設での生活の様子を報告している。職員はキャリアアップ研修や外部研修に参加したり、またユニット内での勉強会も行い、知識習得に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に優しいゆとりの介護を備えた施設である。リビングは見守りし易くコンパクト化させ、採光を考えたおしゃれな中庭風のテラス。居室はゆとりある広々さでトイレはすべての居室に設け、車椅子も利用できるプライバシーを守られている。スタッフは、個々の身体感覚から排泄にも気づき、早期に把握していた。今現在の入居者が、知人に入居者を声掛けするくらい好感度が高い。グループ長や管理者が、目標に向かって気づきを共有し、少しでも入居者の生活に妨げず、また喜びを増すように工夫を重ね、普段からベクトルを合わせている。何をすべきかを日々前向きに考えている現実と職員との調和が、たおやかに心に染み渡ってきた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人研修をはじめ、勉強会などで定期的に理念を確認し、全職員が理解していけるように努めている。	全職員が理念を理解し、法令・虐待・リスクマネジメント・介護技術等を3ヶ月・6ヶ月毎にフォローアップしている。現職員には、年間計画として、年1回は理念を読み合わせている。各研修会や日々の申し送りなどで、常に、理念に基づいた考え方で発信できる場を培っている。	来訪された方にも、わかりやすく掲示し、職員が実践できやすく細分化して具現化しては如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や地域の美容院の使用、地域の夏祭り、公園の掃除に参加し、地域との交流を深められるように努めている。	町内会に入会して、会報誌を町内会長宅に持参して、毎月、回覧板に載せて頂いている。散歩はコロナ前から隣の公園に行く事が変わらない日課であり、地域の方や学童も多く、交流が続けられ、民生委員とも親しくしているので、利用者スタッフ皆の憩いとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りや町内清掃に参加したり、町内の回覧板にコスモス新聞を回していただき地域の方に理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、町内会長、民生委員、家族に参加していただいて意見、要望をいただけるように取り組んでいる。コロナウイルス対応の為、現在は2カ月に1回、資料、アンケート送付にて対応している。	隔月に書面形式で開催。家族・町内会長・民生委員・包括支援センター・利用者の参加となっている。認知症講座をして欲しい、夏には脱水や高齢者虐待等の講座の要望を文章の講座形式に替えて理解を深めて頂く様になり、心温まる労いの返信や街中でばったり遭った時に交流が深まった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政からの問い合わせや提出書類には迅速に対応するよう心がけている。	窓口は、グループ長。困った事や分からない事があれば、その都度のように行政に出向いて、直接意見交換や相談して、何でも話し合える協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については、交通量が多いため仕方なく行っている。ただ、リビングの窓から庭や駐車場に出ることは可能である。外に出たいという要望に対しては、職員とともに外出している。	散歩や敷地内へ日向ぼっこに出来る事が習慣化されており、利用者のストレスフリーとなっている。ケアすると手が出る方や危険回避が困難となった方等には、事業所内で意見出し合い、直ぐに薬に頼らず、時に本部の研修部と現場と一緒に考えてケアにリトライし、拘束をしないケアとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催している。また、虐待についての勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が必要としていることを活用できるよう支援している。また、カンファレンス等で職員への勉強会を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の中で利用者や家族に説明し、質問に対しても理解いただけるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、ケアプラン更新の際に要望をうかがい、沿えるように努めている。	主に電話で意見を聞き取る。月に一度は、要望を家族に聞き取る。電話の際には、日ごろのエピソードを伝えながら聞き取る様にしているので、具体的な要望を聞き取れる。体調の異変に直ぐに医療に繋げたい意向を家族に伝えて、次の行動に移すなど家族を巻き込んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の中で職員が気付いた事を、カンファレンスで話し合い、意見を反映できるように努めている。	職員とは、仕事やプライベートの事等、何でも話せる関係が出来ているが、その関係の罅(かすがい)に看護師さんがなってくれており、ゲートキーパー役となっている。急な勤務変更も職員で協力し合え、「利用者さんに～してあげたい」との意見や提案にも迅速に応えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を認めキャリアアップ研修に参加し、資格が取れるようにバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や、外部・内部の研修への参加など、キャリアアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修や、他のユニットとの合同研修に参加し、広い視野で学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時はもちろん、入居後も定期的に要望や不安に思う点をうかがい、全職員がニーズを把握できるようにしている。利用者ごとに担当職員を配置し、より深く要望を聞き取れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と度々対話を行い、要望や不安な点を聞き取るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望をうかがい、何を必要とされているのかを見極め、カンファレンスの際に検討し、すぐに支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを生活の場と捉え、入居者が今までできていたことを継続できるように支援している。特に洗濯物たたみや、生け花、花の水やりなどできることはして頂き、グループホーム内の役割を持って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には、日頃の様子をお伝えしたり、昔の御様子等を伺っている。遠方の家族には、電話やメール、手紙で御様子をお伝えしている。また、利用者と家族が電話で会話できるよう援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで行かれていた場所へ出かける機会を設け、行きたいところへ行けるように援助している。また、馴染みの人(友人)が気軽に訪ねて来られるようにしている。	今までの馴染みの方とは、リビングの窓から面会ができ、顔を見ると安心できる。また、散歩に行けば馴染みとなる近隣の方と会え、和める。知人に電話をかける介助もしていることから、利用者はストレスフリーとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、顔なじみの関係が作れるよう、職員が間に入って挨拶をしたり、話題を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にもお手紙を出したり、面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生活されていたスタイルを出来るだけ入居後も続けていただけるよう気をつけている。今まで使用していた家具や思い出の品物、写真等御自分の部屋に飾って頂いている。	入居前の暮らしぶりを家族によく聴き、馴染みの品を持ち込んで頂いている。意思疎通が困難な方には、おやつを食べている様子や庭の草花を眺めたりしている時の何気ない表情から意向を察知している。持ち込まれた夫婦写真や思い出の写真から話題を作り、意向を聞き取り易くしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を、本人・家族に細かくうかがい、また入居前の利用サービス事業所にも情報提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在できる能力をケアプランに記載し、過剰な介護をしないように配慮している。また、心身の状態の変化に迅速に対応できるように主治医、家族、職員で情報を共有し、プランに反映するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と十分話合いを持ち、また、問題事項は、主治医や専門職にも相談し、よりよいケアを模索し、迅速にケアプランに反映させ、実施している。	ケアプランは、医療チーム・現場職員との日頃のやり取りの蓄積を計画作成者が原案を作成し、担当者会議で取り纏めて本プランとしている。プランは、入居時と一か月後、以降3か月ごとに作成。モニタリングは毎月実施しており、実用性の高いプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を介護日誌や個人記録、看護記録に細かく記入し、出勤時に全職員が確認するようにしている。また、カンファレンスで再度確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの状態やニーズに対応できるように努力しているが多機能といわれると難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々なボランティアの方々に訪問いただいたり、地域の美容院を利用させていただいたりしている。現在は、コロナウイルス対応の為、外部からの訪問は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医をお願いしている。往診も可能である。	入居前に、かかりつけ医を選択して頂く。提携医は2週間毎に往診があり、24時間、緊急時に対応して頂ける。通院は、職員が介助をするが、近場であれば家族と現場で待ち合わせて情報共有をしている。主治医は、出来るだけ、かかりつけと主病の専門医と二人体制としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医にその都度相談し、指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	度々面会に行き、家族や病院関係者から情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を汲んで、グループホームとして出来ることを伝え相談している。	看取りを行っている。今年も2名看取ったが、いずれも家族が看取る事が出来た。職員は経験豊富。入居時に終末期に関する説明をし同意を受けていて、年間計画の中に、年1回の看取り研修をして、皆で知識を深め安心できる体制を築いている。看取後もデスカンファレンスを実施していて、次の準備を欠かさない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練や勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地元消防団の協力のもと年2回の訓練を実施し、マニュアルの確認を行っている。	消防署の指示を受けて、年2回、火災と水害を、昼夜を想定して避難訓練をしている。訓練は利用者と一緒にやる。緊急連絡網はラインを活用。備蓄は、3日分以上、水と食料を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの個性を大切にその人の生活のリズムに合わせている。また、職員の話かけが失礼にならないように十分注意している。	呼称は、苗字に「さん」付けを基本とし、同姓の方には、下の名前に「さん」付けをしている。利用者が何か失敗されたとしても、声のトーンを下げて、他の利用者の目の届かない所へ、そっと連れて行くなどして、プライバシーを確保している。居室の表札は、希望者だけ標榜している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かいことでも本人に決定できるようにしている。服を選んだり、飲み物を選んだり、入浴の時間やトイレの時間であったりと本人の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者の要望を優先している。その日、その時の状況に合わせて買物や外出等入居者の楽しみを優先している。しかし他の入居者の方と要望が重なった際には、時間帯をずらして頂くよう、交渉をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には自分で服を選んでいただいている。外出時や行事の時には希望者にはお化粧をして頂けるよう声掛け援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選びやメニューと一緒に考えるようにしている。また、畑で野菜を育て、一緒に収穫をした食材を使用し、料理を楽しんで食べて頂けるようにしている。	ソーシャルディスタンスを配慮した上で、距離を取ってパーテーションをせずの食となっている。おやつ作りに力を入れ、食事は外部発注をしているが、庭の菜園の野菜と一緒に摘み取って下ごしらえをして、食卓に挙げる事もある。利用者とは何が食べたいか話し合いながらメニューを考えている。	地域との付き合いとして食事は重要なポストなので食材業者や栄養士さんに参加して頂き、より満足した食事を提供する為に、様子を窺って欲しい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日のカロリー摂取量や水分量には十分に注意している。月1回体重測定を行い、変動によっては医師の助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。定期的に歯科往診をお願いし、口腔ケアや日常のケアへのアドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し、本人にあった時間にさりげなく誘導するようにしている。	基本は居室のトイレを使う。下着に不快感を露わにする方には、多角的な方法でアプローチしようと家族と意見交換をしながら取り組み、不快感を取り除く事を実現させ、ベテランは出勤時に気配で利用者が排泄したかを察知している。家族には、毎月、使用料の開示をしてコスト意識を高めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分量や青汁、ヨーグルトなど、便秘に有効なものを摂取していただく。朝のラジオ体操や入浴時の腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴の時間をずらしたり、日にちを調節している。	リフト浴・週2回の提供をし、希望者には頻度を増やすこともしている。一人ひとりお湯を入れ替え、清潔をモットーとしている。好みのシャンプーやゆず湯が楽しみとなり、嫌がる方には、時間を変えたり、「往診があるから綺麗にしておきましょう」など言葉かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ外出などの日中活動を促し、生活のリズムを整えている。寝付けられない方には飲み物や軽食を出し、お話をしたりしながら、自然に休めるように促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際には薬袋の名前と薬の数を職員2名にて確認し、飲み込みまで確認している。薬の効能や副作用をファイルして、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出時や行事の際には写真を撮り、個人ごとのアルバムに入れている。本人の能力、生活歴、嗜好にあわせている。また家事や畑仕事などその人にあった役割や楽しみを提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族に伺い、家族と共に昔よく訪れていた場所や自宅に訪問できるように支援している。	散歩や敷地内へ日向ぼっこに出来る事が習慣化されていて、挨拶を交わすことで、生きがいが増している。庭木の水やりや庭木の果実の収穫を見物することで、外の空気を胸いっぱい吸い込んでいただいで健康を促している。定期的受診でドライブをすることもストレス解消となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお小遣いを管理して頂くことも可能。希望時には、買物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話をされたり、手紙を出されたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大事にし、お雛様・節句・クリスマス・正月・七夕などの飾りつけを行っている。また、利用者に生け花をしていただいている。	玄関のスロープから季節の木花が出迎え、南欧風のオレンジ色のレンガと相まって明るい雰囲気を出していた。共用空間の中央の中庭はウッドデッキ仕上げで、フロア全体に優しい陽を降り注ぎ、廊下やリビングも季節を感じる制作物が声を掛けてくれる。利用者は、リビングのイスに腰を掛けて寛いでいる様子が印象的だった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下などにも少し座ってくつろげる空間を作っている。中庭へも自由に出入りでき、日光浴も楽しめる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使われていた愛用の品を持ってきていただくようお願いしている。ご家族の写真や位牌、仏壇などをお持ちの方もいる。	居室は6畳の広さだが、タンスやトイレが別設なので、とても広く感じる造りとなっている。トイレと洗面台と介護ベッドと寝具が備え付けられ、ホームで創った制作物や、遺影、家族写真等で見守られていた。利用者が家族と職員に相談しながら導線に配慮しつつ、思い思いの居室を作っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や導線の確保、快適に過ごせる広さなどにも注意し、一人一人の能力に合わせた居室空間を作るようにしている。		